



関東ブロック中学校
社会科教育研究会
【会長】宮崎 宏明
【編集】東野 茂樹

【事務局】
町田市立南大谷中学校
〒一九四-〇〇三一
町田市南大谷九八五-一

【題字】初代会長
宮崎 謹一郎



会長あいさつ

会長 宮崎 宏明

(東京都杉並区立西宮中学校長)

関東ブロック中学校社会科教育研究会の会長として二年目となりました。東京都杉並区立西宮中学校長の宮崎宏明です。今年度はコロナ禍前のように、第一回理事会在六月に台東区立上野中学校で集合により開催され、その中で選任していただきました。今年度も本研究会の発展のため、微力ながら職務に励んでおります。会員の皆様、ご関係の皆様には、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アフターコロナでの教育活動】

約三年に渡って学校現場を混乱させてきたコロナ禍ですが、昨年度末頃からその対応が見直され、今年度の五月には感染症法上の位置づけが、感染者に就業制限や入院勧告ができ、医療費を全額公費で負担する二類相当から、季節性インフルエンザと同じ五類に移行しました。学校現場においてもその対応が大きく変わり、教員の研修会や連絡

会などについても、集合・対面による開催の復活に拍車がかかっていきました。

こうした中、私たち関ブロ中社研の活動もアフターコロナに舵を切っていきます。先述の第一回理事会是もちろん、昨年度はオンラインで実施しました、全中社研、都中社研と共催の夏季・冬季セミナーも集合の形で開催いたしました。ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

【制約がなく効率的だった埼玉大会】

落ち着いたと言ってもまだまだ注意が必要な新型コロナウイルスに加え、インフルエンザの流行も心配される中、増田正夫会長はじめ埼玉県社会科教育研究会及び埼玉大会実行委員会の皆様は、早くから制約のない集合・対面形式での開催を決意され、その効率的運営を検討してこられました。その甲斐あって第四十一回研究大会(埼玉大会)は、十月二七日に無事開催されました。地歴公の

授業会場でもある久喜市内の三つの中学校をオンラインで結びながら、各会場ではそれぞれの授業についての研究協議が深められた、効率のよい大会であったと思っております。

現行中学校学習指導要領は完全実施から三年となりその質の向上が求められています。今年度六月には、「二〇四〇年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとした新教育振興基本計画が閣議決定されました。これはまさに、本大会の主題「よりよい社会の創り手を育てる社会科学習」と趣旨を同じくするものがあります。

埼玉県社会科教育研究会の皆様は、小中学校の垣根を越えて研究活動を推進され、相互にその成果を共有されていると伺っております。今大会の成果も広く関東内外で校種を超えて活用されますことを期待しております。

【教員を育てる研究会として】

まだまだ注意は必要ながら、コロナ禍が落ち着いたことにより、校外で教科等の研修を受ける機会は多くなってきたように思います。一方、働き方改革の中で研修の時間を確保することは簡単ではありません。これに加えて昨今の教員志望者の減少も教員の質に関わる大きな問題です。

それでも今年度、多くの先生方が一堂に集まり、子ども一人一人の息づかいを感じ、膝を突き合わせて熱心に協議されている様子を拝見し、人と人とが直接会って研鑽することの大切さを改めて痛感しました。本研究会は教員育成のため、今後もしっかりとした機会を提供していきたいと考えています。

第四十一回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉(久喜)大会を終えて

大会実行委員長

埼玉県社会科教育研究会長

増田 正夫

(加須市立加須小学校長)



令和五年十月二十七日(金)第四十一回関東ブロック中学校社会科教育研究大会を本県久喜市において開催しました。ここで久喜市の紹介をさせて頂きます。久喜市は二〇一〇年に久喜市、菖蒲町、栗橋町、鷲宮町の一市三町が合併して誕生した埼玉県北東部に位置する人口約十五万人の都市です。JRと東武線が乗り入れ、都心から約五十分というアクセスのよさもあり居心地のよいホームタウンとして市民に愛されています。七月の提燈祭りは有名です。

当日は秋晴れの下、久喜市立久喜中学校で全体会及び記念講演を実施し、同時オンライン中継で久喜市立栗橋東中学校と同市立鷲宮東中学校に配信し、間接的ながら全参加者が共有しました。コロナ禍、働き方改革という潮流の中、三中学校間の距離があること、各校が駅から徒歩約二十分から三十分程度の距離があること等を考慮し、参加者全員が一箇所に参集するのではなく、最初から参観を希望する分野の会場で終日御参加頂く方式としました。この方法は、運営面からも効率的であり、参加される方の心身の負担も少ないのではないかと考えた次第です。午前の全体会及び記念講演と午後の樋口雅夫先生の指導講評から共有したわけですが、大きな

トラブルもなく円滑に展開できたようでありました。なお、三会場合わせた全体の参加者は約三百五十人でした。関東各都県市及び埼玉県内から参加された皆様にあらためて感謝申し上げます。

開会行事では、主催者を代表しまして関東ブロック中学校社会科教育研究会長の宮崎宏明校長先生から御挨拶を頂きました。また、御来賓として全国中学校社会科教育研究会長の高山知機校長先生や会場地の久喜市教育委員会教育長の柿沼光夫様をはじめ、多くの方々から御祝辞をいただき、大会に華を添えて頂きました。

さて、本県では研究主題「よりよい社会の創り手を育てる社会科学習」副題「社会的な見方・考え方を働かせた深い学びの追究と、指導と評価の一体化」を設定し、令和三年度から研究部を中心に社会科授業の工夫改善に努める一方、様々な調査研究を積み重ねてきました。当日はその一端を三分野の授業で公開させて頂きました。ここに至るまで、各分野の研究部員と会場校の授業者が連携し、共通実践してきた取組でした。各授業の成果と課題等については、参観された先生方皆様の評価に委ねます。また、参加された皆様には研究紀要と指導案集の他に、

DVDを用意させて頂きました。年間指導計画や評価計画、公開授業資料、ICT活用事例、追加した実践事例等が収まっていますので、是非御活用頂ければ幸いです。

令和十年度には、全国中学校社会科教育研究大会埼玉大会を関東ブロック中学校社会科教育研究大会と共催で開催する予定です。今回の経験を生かし、更なる研究に励んでいく所存です。

むしろ、貴重な御講演を頂きました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の磯山恭子先生、各分野の研究推進の理論と実践について細やかな御指導を頂きました玉川大学教授の樋口雅夫先生、実際の授業の御指導を頂きました埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事の丸橋直樹先生、同じく指導主事の歌代圭介先生、国立教育政策研究所教育課程研究センター学力調査課専門員の吉野山慎先生に感謝申し上げます。また、地理的分野の池部英一先生、立川敦史先生、加藤雅也先生、歴史的分野の大名拓史先生、丸山美穂先生、公民的分野の駒田哲朗先生には、研究主題に沿った提案性のある素晴らしい授業を提供頂きありがとうございます。この日を迎えるまでたくさんの苦労があったことと思います。さらに、会場を快く御提供頂くとともに、前日の準備及び当日の運営にも御尽力頂きました籠宮賢治校長先生、福沢仁恵校長先生、木村信之校長先生をはじめとする教職員の皆様、本当にありがとうございます。また、実行委員として協力頂いた先生方をはじめ、関係者の皆様に感謝と令和十年度の全国大会でも御活躍頂くことを期待申し上げます。

第四十二回 関東ブロック中学校社会科教育研究大会(茨城大会)に向けて

大会実行委員長



茨城県教育研究会社会科教育研究部長

鈴木 稔
(水戸市立緑岡小学校校長)

茨城県では、令和六年度実施予定の第四十二回関東ブロック中学校社会科教育研究大会(茨城大会)に向けた準備を進めております。この度の大会は、コロナ禍の最中に方向性が立案されたこともあり、大会の運営等を前回茨城大会とは大きく変更して、令和六年十一月二十二日(金)に、昨年七月に新たに開館したばかりの水戸市民会館を会場に開催いたします。関東地区の社会科教育に携わる多くの皆様にご来水いただき、参加いただければ幸甚に存じます。

さて、中学校指導要領が全面实施され三年目を迎えます。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことが求められています。社会科における学びが、そのねらいを達成することに大きく寄与していることは疑いのないことだと考えます。また、若手の教員が増えてきている状況の中で、その授業力を高めていくことも、県内では喫緊の課題となっています。そこで、令和四年度より県内各地から推薦された中堅の研究推進委員を中心に授業づくりチームを編成し、社会科授業の質をより高めるための授業研究を推進してきました。

本大会の準備を進めるにあたって、「内容の充実とコンパクトな大会の両立」を目指した関東ブロック大会の運営について協議、検討してきました。内容の充実については、①県全体での研究推進・社会科教員の授業力向上、②県内各地域における社会科教育推進リーダーの育成、③若手教員への授業づくりへの提案、④小中連携など、茨城県の強みを生かした研究の推進などを柱としました。さらに、令和九年度に実施予定の全国小学校社会科研究協議会研究大会(茨城大会)の実施に向けた、継続的研究組織の構築なども大事な運営の軸と考えています。コンパクトな大会運営につきましては、①会場となる水戸市民会館のみでの実施とし、会場での授業公開を行わないこと、②授業等の検討、情報の共有などに、インターネット環境を最大限に生かすことなどを意識しております。対面・参集のよさは十分に理解しておりますが、どの部分をどのようにすれば「持続可能な関東ブロック大会」の運営が可能となるのかについても、模索しながら進めているところです。このことにつきまして、関係者の皆様からのご感想やご意見をいただけたらと考えております。

研究主題は、「未来を創る力を高め合う生徒の育

成」『つながり』を見出し、深め、活かす社会科学習を通して」です。授業の構想においては、「つながり」をキーワードとし、単元における「社会的現象同士のつながり」、「多様な他者とのつながり」、「自分自身と社会とのつながり」の三つの「つながり」を洗い出し、「見出し、深め、活かす」の学習過程に意図的に位置付けることで、授業づくりの骨子とすることとしました。また、①社会的現象同士の関係を探究する問いの工夫、②多様な他者との対話・協働を重視した学習活動・学習環境の充実、③よりよい社会の在り方や自分自身の生き方について考え、表現する場の設定、④主体的に社会に参画する態度を育てる振り返りや評価の工夫を、主題に迫るための四つの具体的な手立てとして設定しました。これらを「単元構想図」にまとめ、「学習指導案」に表現し、授業を実践していくことで、研究主題において求めている生徒の姿を実現していこうと考えています。現在は、研究推進委員と授業助言者の先生方による十チームの授業づくりチームが、県内各地区において、二度の研究授業を経て、まとめの授業づくりに取り組んでいるところです。十一月には多くの実践をご提案できると考えています。

大会会場は、水戸駅からバスで約五分、徒歩で約二十分の距離にあります。大変便利な場所に立地しておりますし、駅周辺には多くの宿泊施設もありますので、ぜひたくさんの方に来水していただければと考えております。結びに、このような貴重な機会をいただいた関係各位に心から感謝申し上げます。今後大会まで、茨城県全体で社会科教育を盛り上げてまいりますので、次年度、水戸に足をお運びください。よろしくお願いいたします。

《特別寄稿》第五十六回全国中学校社会科教育研究大会栃木大会を終えて



栃木県中学校教育研究会社会部会 部会長
齋藤 弘明

(宇都宮市立清原中学校長)

四年ぶりの通常開催となる全国中学校社会科教育研究大会を宇都宮で十一月九日・十日に開催させていただきました。全国から多くの先生方や関係機関の方々にご参加いただき、盛会のうちには終わることができましたことを心より感謝申し上げます。

この三年間、コロナ禍に翻弄されながらも、スローガン「栃中社研のチームワークで子どもを育てる底力をさらに強めよう」の下、本大会が全国の中学校社会科教育の充実・発展に寄与できるよう、勤務校を超えた栃木県中学校教育研究会社会部会(栃中社研)の結束力で、社会科学習指導の研究と実践を継続してきました。

今大会は、大会主題として「社会を見つめ、社会と関わる力を育む社会科学習の創造」を掲げ、主體的な学びをベースにしながらも、これからの予測困難と言われる時代を生きるためには、さらに「社会を見つめ、社会と関わる力」が必要であると考えました。これは、日常生活でも、事実やより確かな情報に基づいて、社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に思考することとで社会的現象を捉え、「よりよい社会とは何か」「よりよい人生とは何か」を自問し続ける力であり、どうすれば、社会を見つめ、社会と関わる

力が身に付くのかを批判的思考の育成と批判的思考態度の育成の二つの視点から、授業を通して追究してきました。

GIGAスクールの推進にともない、適切に情報を読み取ることがより一層求められていますが、栃中社研では、批判的思考の育成を「情報をただ鵜呑みにするのではなく、その情報を精査して自分なりの考えを持つこと」と捉えるとともに、批判的思考を発揮するためには、情緒的側面である批判的思考態度の育成も必要であると考えました。

このような研究構想の下、主體的に学習活動に取り組み生徒の姿を通して、これまでの研究成果を発表しました。授業終了後に、教師・生徒ともに満足した顔をしていたことが印象的であり、それが授業の評価にもなっていると考えています。

また、運営面におきましては、これまで分散していた大会会場を宇都宮駅直結の「ライトキューブ宇都宮」に集約し、参集型の授業公開を行うとともに、いつでもどこからでも参加を可能とするweb配信を行うハイブリッド型公開とし、参加者の利便性を高めました。各県等の単位部会におかれましては、初の試みとなるハ

イブリッド型公開について、多大なご理解とご協力をいただきましたこと、深くお礼申し上げます。web配信の成果と課題につきましては、まだ整理できる段階にはありませんが、様々な可能性を秘めておりますので、今後の開催に委ねたいと思います。

大会紀要の巻末にある『山茶始開(つばきはじめてひらく)』に記載されている「人々の思いや情報を見つめ、よりよい社会やよりよい人生を問い続けることを実践すること」は決して容易なことではありませんが、今後も栃中社研は、信条として「常に実践に基づいて、理論を構築していく」不易と流行の指導法を追究し続けていきたいと考えております。

結びに、本大会の開催に当たり、ご指導ご助言を賜りました文部科学省初等中等教育局視学官・教科調査官の先生方、全国中学校社会科研究会会長・幹事・事務局の先生方、地元栃木県・市町教育委員会並びに関係の方々にお礼を申し上げます。合わせて次期開催となる北海道大会のご盛会並びにご成功を祈念しまして、大会終了の挨拶とさせていただきます。



【栃木大会実行委員長の挨拶】

群馬県の研究概要

群馬県小学校中学校教育研究会
中学校社会科部会長

都所幸直

(前橋市立第一中学校長)

〈研究テーマ〉

未来を切り拓き、

たくましく生き抜く生徒を育てる社会科学学習
～他者と協働し解決に結びつける力の育成～

一 研究主題

本県の今年度の研究主題は、昨年度実施した関東ブロック群馬大会のテーマ「未来を切り拓き、たくましく生き抜く生徒を育てる社会科学学習」を他者と協働し解決に結びつける力の育成～を引き継ぐこととした。具体的な研究内容についても、昨年度まで実践を重ねてきた「単元構想」、「協働する場の設定」、「ICTの活用」の三つの内容の研究を継続して取り組んだ。

二 研究事業

地区別授業研究会 (担当：利根郡)

①日時 令和五年十一月二十八日(火)

②会場 昭和村立昭和中学校

③授業者 静野 一輝 教諭

(昭和村立昭和中学校)

④指導助言者 中島 康男 先生

(利根教育事務所指導主事)

概要

本時は地理的分野の日本の諸地域「関東地方」を題材に、「関東地方の農業の特徴や人口問題について知り、昭和村の発展に必要な提案

を考えよう」というめあてに基づいて、授業提案が行われた。

本単元では、「つかむ」の学習過程で様々な資料を基に①都市での生活、②工業、③農業村落、

④商業・サービス業の四つの視点から人々の生活の様子を推測し、単元を貫く課題が設定された。「都市への人口集中は、都市や農村の人々の生活や産業をどのように変化させたのか」という課題の解決に向けて学習が進められた。本時は「追究する」過程の最後の時間であった。導入では各自が資料から昭和村や関東地方の農業の特徴や農村が抱える課題を読み取り、少人数グループでKJ法により整理し、ホワイトボードにまとめて全体で共有した。出された特徴や課題を基に、昭和村の今後の発展に向けた具体策をグループごとに話し合い、授業支援ソフトを用いて共有した。協働する場を通して、社会的現象を多面的・多角的に再構成し、考えを深めることができた授業であった。授業研究会では様々な年代の参加者がワークショップ形式で議論を深め、有意義な研究会となった。

地理的分野の学習要素を踏まえ、身近な地域の将来を考える学習課題の解決に向けて、主体的に取り組む姿と、他者と連携して学びを深める姿が見られ、大きな成果を感じる研究大会となった。

千葉県の研究概要

千葉県教育研究会社会科教育部会会長

菊地友樹

(千葉市立泉谷中学校長)

〔研究主題〕
『よりよい社会の実現に寄与する
「生きる力」を培う社会科学学習』

一 研究の取り組み

本研究会では、社会的事象に対して地球的な視野で考え、主体的にかかわり、判断し行動できる態度と能力、すなわち、よりよい社会の実現に寄与するための「生きる力」を培うことが何よりも大切であると考え、次に示す四点を「生きる力」ととらえ、本研究主題を設定し、研究を進めている。

◆豊かな人間性や社会性をもち、国際社会に生きる日本人としての自覚があること (豊かな社会性)

◆よりよい社会の実現に必要な基礎的・基本的な事項を理解すること (基礎的・基本的な事項への理解)

◆社会的事象に関心をもち、進んで課題を見つけ、意欲的に問題を解決する資質や能力をもつこと (社会的事象に関する関心・意欲)

◆社会的思考力・判断力・表現力等の能力をもち、社会の変化に主体的に対応できる力をもつこと (主体的に学ぶための能力)

二 研究会事業

(一) 研究体制

本研究会では、平成二十三年度に改訂した上述の研究主題の下に、県下十六支会がそれぞれ地域の実態を加味した主題を設定し、授業研究や巡検などを行い、以下の研究大会・研修会で

研究協議をしていく中で研究主題に迫るようにしている。

(一) 研究大会

研究会としての中心的な活動は、研究大会と宿泊研修会である。隔年で研究大会と宿泊研修会を交互に開催して実践を持ち寄り、研究協議を深め主題に迫るようにしている。大会運営は各支会が実施の主体となっており、研究会の研究レベルを高める良い機会となっている。研究大会は一日開催で授業研究を、宿泊研修会は一泊二日で開催提案を中心にしており、加えて、講演会と研究協議会を行っている。感染症対策として昨年度、今年度の二年間は実践提案論文を募ったり、提案動画を集めたりしながら、HP上にての開催となった。若年層の増加に伴い、各支会の研究体制の維持も課題となってきた。また、令和八年度関ブロ千葉大会を見据え、今後の研究大会の在り方を模索しているところである。

東京都の取組

東京都中学校社会科教育研究会会長

鈴木 裕行

(練馬区立大泉西中学校長)

(研究主題)

「グローバル化する社会を生き抜く
これからの生徒を育てる社会科学学習」
「よりよい社会を実現するための
資質・能力の育成」

(一) 総会及び講演会

五月十九日(金) 午後二時半
東京都教職員研修センター 七〇三研修室
総会

・令和四年度事業報告、決算報告

・令和四年度監査報告

・令和五年度役員承認

・令和五年度事業計画、予算案承認

講演会

講演 「学習指導要領の確かな定着と
都中社研の研究に期待すること」

講師 藤野 敦 先生

文部科学省 初等中等教育局 視学官

(併) 文部科学省初等中等教育局

教育課程課 教科調査官

(併) 国立教育政策研究所

教育課程研究センター 教育課程調査官

(二) 社会科地域巡検

熱中症対応のため中止

(三) 研修会 (全国・関東・東京都合同開催)

① 夏季セミナー

八月二十三日(水) 午後三時

演題 『東京の鉄道発達史』

～都心一周の山手線が誕生するまで～

講師 中村建治 先生

鉄道歴史研究者・作家 鉄道史学会会員

② 冬季セミナー

十二月二十六日(火) 午後二時半

演題 『歴史的分野の学習における主体的な学

びとは』～新学習指導要領の着実な実施に

向けて～

講師 藤野 敦 先生

文部科学省 初等中等教育局 視学官

(四) 東京都教職員研修センター連携事業

令和五年度専門性向上研修 社会【II】(小・中・特) 授業づくりの工夫 第二回
・十月三十一日(火) 三分野それぞれの実践発表

(五) 東京都小学校社会科研究会交流事業

(全国小学校社会科研究会研究大会参加)

・十一月十日(金) 第一会場 新宿区立四谷小

学校

(六) 全国中学校社会科教育研究会

栃木大会分野別発表

・十一月十日(金) 分野別発表 公民的分野

発表者：主任教諭 藤田 琢治

(目黒区立第九中学校)

(七) 社会科指導技術向上研修会(示範授業)

・二月九日(金) 授業者：指導教諭 伊藤 郷

(渋谷区立上原中学校)

第三学年 公民的分野「C 財政」

講師 坂本 教喜 先生

東京都教育庁指導部義務教育指導課長

(八) 三分野合同研究発表会

・二月十九日(月) 東京都教職員研修センター

指導講評 佐野 金吾 先生

東京家政学院中学校・高等学校 校長

講演 「歴史教科書と日本中世史研究、そして教科書検定」

講師 高橋 秀樹 先生

國學院大学文学部史学科 教授

神奈川県の研究概要

神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会会長

松崎 宏行

(川崎市立川中島中学校長)

(研究テーマ)

「社会的な見方・考え方を働かせた『思考力・判断力・表現力』を身につけさせる単元の工夫」

一 地区別巡検・講演会

○平塚地区巡検(海軍火薬廠跡等散策)

七月三日

○横須賀地区巡検(浦賀ドック見学)

十一月一日

○講演会「東海道川崎宿四〇〇年のあゆみとまちづくり」

川崎区役所地域振興課 外山富之氏
二月二十二日

二 地区別授業研究大会

① 日時 令和五年十月二十六日(木)

② 会場 大井町立湘光中学校

③ 授業者 地理的分野 杉田俊介(文命中)

歴史的分野 重田 優(湘光中)

公民的分野 鈴木文哉(山北中)

④ 基調提案 鈴木文哉(山北中)

本大会の研究主題である『『思考力・判断力・表現力をはぐくむ指導方法の工夫・改善』』をねらいにせまる単元計画の作成について足柄上・南足柄地区の社会科教員で取り組んだ授業展開の実践を紹介し、成果と課題を提言した。

⑤ 分科会 I

研究授業の三分野に分かれての研究協議

分科会 II

分野ごとに二本の研究提案を行い研究協議

三 総会・幹事会の実施

五月十日(水) 研究総会(綾瀬市中央公民館)

六月・七月・十月・十一月・二月の五回の幹事会を各地区で開催した。

横浜市の取組

横浜市立中学校教育研究会社会科部会会長

石川 博

(横浜市立西中学校長)

(研究主題)

「よりよい社会を実現する力を育む社会科学習の社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして」

一 研究主題について

昨年度の研究大会での反省やさまざまな御意見をいただいたことを受け、今年度も同様の研究テーマにし、「授業者と生徒との対話」「生徒と教材との対話」を視点として授業づくりをすすめた。

二 授業研究

① 研究授業 令和五年十月十八日 南が丘中学校
「武士による統制のもと、いかに百姓・町人は生きてきたか」(近世までの日本とアジア)

② 授業報告会 令和五年十二月十三日(西中学校)
研究授業の報告と研究協議

三 研修事業

① 春季講演会 令和五年五月十日(泉公会堂)

演題「社会科としての資質・能力を育むための単元構成と指導と評価の一体化」

講師 藤野敦氏(文部科学省視学官)

② 夏季研修講座 令和五年八月二日(保土ヶ谷公会堂)

演題「江ノ電の歴史と企業理念と観光とオーブツーリズムについて」

講師 江ノ島電鉄株式会社総務部課長、経営管理部長

演題「中学校社会科における学習評価とデータの活用」

講師 上園悦史氏(東京学芸大学附属竹早中学校)

③ 第五七回浜中社巡検「中世都市鎌倉巡検」
令和五年十月二十八日

比企谷妙本寺、由比若宮(本八幡)、和賀江島、小坪漁港、名越切通、まんだら堂やぐら群、日蓮乞水、安国論寺、鶴岡八幡宮一の鳥居、他

④ 横浜みなと巡検 令和五年十一月十八日
大通公園、吉田橋、馬車道、県立歴史博物館、横浜開港資料館、大棧橋、横浜公園、中華街、初代横浜駅、新港ふ頭、象の鼻公園、他

⑤ 冬季講演会 令和六年一月三十一日(ニュースパーク)

演題「デジタル社会と個人の尊重・民主主義」
AIを実装する社会において憲法の役割をどう考えていけばよいのか」

講師 山本龍彦氏(慶応義塾大学法科大学院教授)

四 横浜市立中学校総合文化祭社会科部門
① 社会科研究発表会 令和五年十二月九日(二)

ユースパーク)

参加校：荏田南中学校、金沢中学校、大綱中学校、老松中学校、横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校

② 社会科作品展

令和五年十二月九日(令和六年一月八日) ニュースパークにて生徒の作品展(五十七校、三六三名の作品)

五 その他

① 授業づくり委員会を対面とリモートで行い、若手の育成を行った。

② 人権教育特別委員会では「被差別部落」をテーマに役員の研修を行った。

全中社・関ブロ中社・都中社合同
冬季セミナーに参加して

高柳綾那
(葛飾区立水元中学校)

十二月二十六日の冬季セミナーでは藤野先生から評価とそれにつながる指導改善の在り方について有意義な講演を聴くことができました。以下に印象に残り今後の授業づくりに役立てたいと考えたことをまとめます。

主体的な学びを実施するためには、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通すこと、分野の学習において課題(問い)を設定し、見方・考え方を働かせて理解する活動の充実を図ることなどが

必要である。問いを設定する際には、内容のまとまりを意識することが大切である。中項目全体の単元を貫く問いを小項目の導入に取り上げ、見通しをもたせてから小項目ごとに問いを設定する。小項目ごとのまとめを踏まえれば、中項目ごとのまとめの際に考察の視点も焦点化することが出来る。また、生徒が学習を振り返らなければ、生徒自身の学びや変容を自覚できる場面が設定できず、評価することもできない。授業改善に繋げるためにも、振り返る場面を設定することが重要となる。

事務局だより

事務局長 小島千恵
(町田市立南大谷中学校長)

日頃より、本会運営にあたり、ご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

十月二十七日、第四十一回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会を無事開催することができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございます。あわせて、本大会の開催にあたりご尽力いただきました、埼玉県社会科教育研究会会長 増田正夫様、埼玉大会実行委員長 佐々木清様をはじめ関係の皆様から感謝申し上げます。

当日は、コロナ禍では実施が難しかった、皆様をお迎えして授業を実際に参観していただくことが叶いました。日々研究に取り組んでいらつしやる先生方の熱意を肌で感じ取り、互いに社会科研究への思いを伝え合うことができ、改めて、対面

による研究発表会の意義の大きさを感じ取るものとなりました。

本大会の主題「よりよい社会の創り手を育てる社会科学習」にあるように、「よりよい社会とは何か」「よりよい人生とは何か」を自問し続ける力やどのように育んでいけばよいのか、社会科学習を通して考える貴重な時を大会に参加していただいた皆様と持つことができました。このことに感謝するとともに、今後、それぞれの授業実践を通して研究を進めていくことの重要性和責任を感じ取った一日となりました。

次年度の研究大会は茨城県で開催されます。今年度同様、皆様と交流し、学びを深めることを楽しみにしております。参加をお待ちしております。

編集後記

令和五年五月以降、感染症対策の大きな転換点を迎え、研究活動の制約が見直されました。各都県市の研究活動が本格的に再開し、研究授業や集合研修、巡検など活発な活動の様子を会報にまとめられたこと、大変うれしく思います。

埼玉大会では埼玉県社会科教育研究会を中心に精力的に研究活動を進められた成果を発表されました。また、関東ブロック内で全中社栃木大会も開催され、多くの人が学び、交流する場に恵まれる一年となりました。

来年度も皆様が充実した授業実践、研究を進めていかれますことを祈念いたします。

編集部長 東野 茂樹
(葛飾区立堀切中学校副校長)